

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研 究 テーマ	看護学生における BLS プロバイダーコース技術の習得レベルに関する研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	中岡 正昭
	研究協力者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	長谷部 美紀
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	植田 春美
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	中村 卓樹
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	中岡 正昭

講演題目				
Heart Code Complete を使用した看護学生における BLS 技術の弱点項目の特定				
研究の目的、成果及び今後の展望				
【研究目的】一次救命処置（Basic Life Support：BLS）は、心停止患者の予後改善に直結する重要な初期対応であり、看護職者にも高い実践能力が求められる。近年、多くの看護系教育機関で BLS 教育が導入されているが、受講後に学生がどの技能項目でつまづきやすいかを客観的に検証した報告は十分ではない。特に、胸骨圧迫の深さ・テンポ・リコイル、人工呼吸の換気量・回数など、各技能要素を定量的に評価し、弱点を明確化することは、効果的な教育プログラム構築に不可欠である。そこで本研究は、Heart Code Complete を活用して BLS 教育を受講した看護学生を対象にレールダル社製 QCPR システムによる実技評価データを用いて、成人および乳児に対する胸骨圧迫・換気補助における不合格項目を分析し、看護学生に特徴的な BLS 技能上の弱点を明らかにすることを目的とした。さらに、その結果を基に、看護基礎教育における BLS 指導方法の改善および個別最適化された技能教育への示唆を得ることを目指した。 【研究方法】本研究は記述的横断研究とし、Heart Code Complete を受講した看護学生 349 名を対象とした。受講後、Laerdal Medical 社製 QCPR 機能搭載マネキンを用いて、成人および乳児に対する胸骨圧迫・換気補助の実技試験を実施した。評価項目は胸骨圧迫の深さ、テンポ、圧迫比率、手の位置、胸郭リコイル、換気量、呼吸回数等とし、AI による自動判定で可否を判定した。				
評価項目	初回合格 n (%)	再試験 n (%)	主な不合格要因	人数 (%)
成人胸骨圧迫	197 (56.4)	152 (43.6)	深さ不足	109 (73.6)
			圧迫比率不良	55 (37.2)
			テンポ不良	15 (10.1)
			手の位置不良	4 (2.7)
乳児胸骨圧迫	309 (88.5)	40 (11.5)	リコイル不良	1 (0.7)
			圧迫比率不良	25 (62.5)
			手の位置不良	12 (30.0)
			深さ不足	7 (17.5)
成人換気補助	288 (82.5)	61 (17.5)	リコイル不良	2 (5.0)
乳児換気補助	296 (84.8)	53 (15.2)	回数・テンポ不良	60 (98.4)
			回数・テンポ不良	34 (64.2)
			換気量不足	16 (30.2)

| 初回合格者数と再試験者数を集計し、再試験者について不合格要因の人数および割合を算出し、看護学生における BLS 技能の弱点項目を分析した。 【成果と今後の課題】本研究により、看護学生の BLS 技能において、成人胸骨圧迫では深さ不足、乳児胸骨圧迫では圧迫比率不良、換気補助では呼吸回数・テンポ不良が主要な弱点であることが明らかとなった。AI 搭載 QCPR 機器による客観的評価は、教育改善に有用である。今後は学年別・性別・体格差との関連分析や、反復学習介入による技能向上効果、長期的なスキル保持の検証が必要である。 | | | | |